

ニュースレター

DSD/JICA PROJECT ON DISABILITY

Department of Social Development (DSD) / Japan International Cooperation Agency (JICA)
Project for the Promotion of Empowerment of Persons with Disabilities and Disability Mainstreaming



2016年5月10日に専門家2名が南アフリカに赴任し、「障害者のエンパワメントと障害主流化促進プロジェクト」を開始しました。第6号ニュースレターでは、2017年11月26日から12月9日に実施した国別研修「地域に根ざしたインクルーシブ開発による障害者の自助グループ設立と強化」についてご報告させていただきます。

目次

国別研修の目的	1
国別研修のプログラム	1
自助グループに関する活動計画	2
今後の予定	2

国別研修の目的

プロジェクトは、これまでプロジェクトサイトのあるリンポポ州ベンベ郡コリンズ・チャバネ市（リム345市より改称）において、障害者自助グループの設立・強化支援を行ってきました。2017年7月には、高嶺豊氏を短期専門家として招聘し、障害者自助グループの意義や重要性についての理解促進を目的としたワークショップを開催し、障害者や行政官など40名以上が参加しました。

今回の国別研修「地域に根ざしたインクルーシブ開発による障害者の自助グループ設立と強化」は、①障害者の社会参加促進ために沖縄の行政、NGOおよび障害者団体が実施している取り組みについて、各機関の役割やネットワークの仕組みおよび機能を理解する、②地域資源を効果的に活用した障害者の社会参加促進に関する沖縄の実践例の分析により、南アフリカで適用可能な取り組みを整理する、③障害者の社会参加および地域に根ざしたインクルーシブ開発を通じた自助グループの設立と強化に関する具体的な方策案を検討することを目的として、障害者の研修員は帰国後、障害者自助グループ活動を実践、拡大できるようになること、行政官の研修員は行政および自治体が担う障害者自助グループの持続的活動支援体制を理解し、帰国後、障害者自助グループと連携したインクルーシブな活動を実践、拡大できるようになることを目指し、日本の沖縄で実施されました。

国別研修には、プロジェクト活動を実施しているリンポポ州と2019年度以降社会開発省が主導となり活動を行う予定の東ケープ州の行政官と障害者、そして、社会開発省本省の行政官、合わせて15名の研修員が参加。さらに、3名の介助者、鷺谷大輔 JICA 専門家の総勢19名が沖縄を訪問しました。障害のある行政官がいることもあり、研修員15名中10名が障害者で、「障害者が活動の中心」というプロジェクトの理念を反映したメンバー構成になりました。

国別研修のプログラム

国別研修は約2週間のプログラム。1週目は、沖縄県視覚障害者福祉協会、那覇市身体障害者福祉協会、希望の大地（就労支援センター）などの活動について学びました。また、那覇市と障害者団体の連携についての講義や、具体的に障害者が社会を変えるために行う障害平等研修やアクセシビリティチェックの実習を行いました。参加者たちは、沖縄で行政と障害者団体がそれぞれどのような役割を果たし、協力しながら障害者の社会参加促進を進めているのか感銘を受けたようです。2週目には、社会福祉法人そてつ会の見学や障害者の自宅訪問、沖縄県自立生活センターイルカの役割に関する講義などがありました。特に、重度の障害者が自立生活をしたり、非障害者と同じく外出などしていることに参加者たち驚いた様子でした。研修最後の2日間は、社会開発省本省、リンポポ州、東ケープ州の3つのグループに分かれ、帰国後の活動計画を作成しました。



高嶺豊エンパワメント沖縄理事長による講義の様子

自助グループに関する活動計画

社会開発省本省チームによって作成された活動計画は、障害者自助グループを地方自治体レベルで制度化することを目的に、①地方自治体を管理・統括する国レベルの関係省庁や組織に対し障害者の自助グループに関するセミナーを開催する、②関係省庁や組織とともに自助グループの運営委員会を設立する、③モニタリング評価を行うなどの計画が立てられました。現在、村レベルの自助グループが立ち上がり、自治体の役割の重要性が認識され始めていることもあり、その持続性を担保するための国レベルの制度・システム作りは非常に重要です。

東ケープ州チームによって作成された活動計画は、ORタンボ市で障害者自助グループを設立することを目的に、①地方自治体や障害者団体など関係者との協議、②自助グループ参加障害者の特定、③自助グループ能力強化のためのワークショップ開催を行うことが盛り込まれました。東ケープ州では、これまでプロジェクト活動が行われていないため、関係者に自助グループの意義や重要性を理解してもらうところから開始する計画が立てられました。

また、東ケープ州とリンポポ州では、マーケットのバリアフリーに関する活動計画も策定されました。

活動計画はグループごとに発表され、高嶺豊エンパワメント沖縄理事長や鷺谷専門家、また他のグループの人たちがコメントしました。

参加者たちは、「沖縄で学んだ多くのことを、南アフリカで実践したい」と話してくれました。



活動計画を発表する東ケープ州チーム



活動計画を作成するリンポポ州チーム

リンポポ州チームによって作成された活動計画では、コリン・チャバナ市での障害者自助グループの拡大を目的に、①自助グループ参加者の特定、②市議会議員など関係者との協議、③18の村における自助グループ設立のための研修開催、④ピア・カウンセリングの実施、⑤それぞれの自助グループにおける活動計画の策定、⑥NPOとしての登録、⑦モニタリング評価、⑧既存の自助グループの強化のための持続的な活動を行う予定です。これまでプロジェクト活動を行ってきたリンポポ州では、どのような手順や活動、関係者の巻き込みが重要かを参加者が理解しているため、非常に詳細な活動計画が策定されました。

今後の予定

今後、プロジェクトでは国別研修で作成された活動計画を基に、障害者自助グループの設立・強化・拡大を支援していきます。また、社会開発省本省、州、郡や地方自治体と連携しながら、自助グループの活動の持続性確保に向けた取り組みを進めていく予定です。

また、プロジェクト第二サイトのフリーステート州でも2018年1月より活動を開始する予定です。

国別研修の様子は、JICA 沖縄のホームページやプロジェクトフェイスブックからもご覧いただけます！

JICA 沖縄ホームページの記事：

<https://www.jica.go.jp/okinawa/topics/2017/ku57pq0000i2mrz.html>

フェイスブック（JICA SADEM）：

<https://www.facebook.com/jicasouthafricadisabilityempowermentmainstreaming/>

Department of Social Development (DSD):
134 Pretorius Street, HSRC Building, Pretoria,
0001, South Africa

Editors:

Daisuke Sagiya: DaisukeS@dsd.gov.za

Ren Kamioka: RenK@dsd.gov.za